
初恋と青春。夜桜の下で・・・

テトリスX

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋と青春。夜桜の下で・・・

【Nコード】

N3663J

【作者名】

テトリスX

【あらすじ】

私と彼女の出会い彼女から言われた一言が5年間一度も忘れません。

出会い（前書き）

国語力通信簿で「2」市かもらったことがない私ですが頑張りました。

皆さん長々となりますが温かい目で

ご支援よろしく願いいたします。

出会い

「あんだなんて・・・大嫌い！」

それが彼女の言い放った最後の言葉。

これは私が実際に体験した話を書いたノンフィクションの話。

私の名前はボウとします。

（名前はプライバシーをいじられたくないので隠します。）

この話の体験者。

身長は平均、少し筋肉質な体系。

性格を言えば短気で強情、みんなと同じことは大嫌いな19歳。

この話をするには15歳の冬に、さかのぼります。

彼女とは携帯のインターネットで出会いました。

別に出会い系などしてたわけではございません。

とあるゲームサイトで知り合い、お互いの事をメールで話していくうちに

会うなりゆきになってました。

そのころ彼女の情報といえば同い年で高校には通ってなく

コンビニのアルバイトぐらいでした。

会う当日私は女性と二人きりで遊ぶのは初めてで服を選ぶので際時間単位で悩みました。

待ち合わせ時間5分前、彼女からメールが届いた。

「今電車降りたから5分ぐらいしたら着くからね!!」

私は心拍数が以上にあがっていて平然を装い返したメールは

「了解。」

今思えば、逆に緊張しているのが、ばれてしまった気がします。

そして時間がやってきた。

待ち合わせ場所から探していた私は

金色のスカジャンでオールバックなのを伝えていて彼女からは探すから楽しみにしててっという事で待つしかなかった。

近くに来る女性、目が合う女性すべてが彼女の可能性を考えてずっと頬骨が痛くなるぐらいの満面の笑みをうかべてました。

そして彼女は私の前へやってきました。

軽く微笑みながら

「あの……ボウさんですか？」

私は彼女を見た瞬間、身体の間々まで寒気を感じました。

髪型はボブで身長は149センチぐらいの細身。

声は元JUDY AND MARYのvo・YUKIちゃんのようなかわいらしい声。

私の夢にまで見た理想の女性と全てが一致した。

続きはまた投稿します。

出会い（後書き）

汚い文章をお付き合いいただき誠にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3663j/>

初恋と青春。夜桜の下で・・・

2011年1月16日07時35分発行